

理事長挨拶

理事長 三村佳壽子

緑樹福祉会は、昨年設立10周年を迎え、赤穂ロイヤルホテルにて「現代国際巨匠絵画展」を開催し多くのご来場をいただきました。その節には家族会のみなさま、赤穂市手をつなぐ育成会のみなさまに多大なご協力を賜りました事この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

さて、この10年の間に多機能型事業所「わかば園」を皮切りに短期入所「ぷくぷくほーむ」、放課後等デイサービス「てくてく」そしてこの4月からは相談支援事業所「ぱいろうと」と、障がい者児の方々やご家族のみなさまの必要とされるサービスの提供に努めてまいりました。

これまで、学齢期、青年期、壮年期の活動の場は何とか保証できたのではと思われまます。しかし、これからの卒業生の受け入れ、今後療育や福祉サービスを必要とされるお子さまの日中の場の確保などは大きな課題であると認識しなければならないと思われまます。そして今後は高齢期を迎える利用者の方のグループホームの整備が急がれます。

今後は、職員は利用者の人権を擁護し、自己選択、自己決定へのアプローチを意識した支援を行うこと、法人としては関西福祉大学、地域の皆様のご支援をいただきながら行政と連携し地域への貢献を念頭に、利用者の皆さまが地域における自立生活支援のため、若い青葉が地域に根を張り緑樹となるよう福祉サービスの提供を推し進めたいと願っております。



ぱいろうと(相談支援)

相談支援専門員 前田康裕

『相談支援事業所ぱいろうと』は、平成31年4月1日付けで赤穂市より指定を受け、指定特定相談支援事業と指定特定障がい児相談支援事業を行う事業所として開設いたしました。

平成24年4月の障害者自立支援法の一部改正により、原則としてすべての障がい福祉サービス等を利用する障がい者(児)について、サービス等利用計画・障がい児支援計画の作成が必要となりました。

(※ご自分でセルフプランを立てる事も可能です)

「サービス等利用計画案・障がい児支援計画案」の提出がないと受給者証を発行する事が出来ず、障がい福祉サービスの利用が出来なくなってしまいます。

そこで、相談支援事業所の相談支援専門員が利用者様の居宅等を訪問し、利用者様及びご家族に話をお聞きして、心身の状況等、希望する生活や自立した日常生活を営む事が出来るよう支援する上で解決すべき課題等を把握し、障がい福祉サービスの内容や情報を適正に提供して、利用者様にサービスの選択をしていただきます。

利用者様の現在や未来と一緒に考えていく大事なもので、例えて言うならば、介護保険におけるケアマネージャーのような存在でなければと考えております。

開所したばかりで、まだまだ課題も山積みではありますが、自分に関わる事で、障がいを持つ方やご家族に安心感や充実感を提供出来るような存在になれるように努力していきたいと思っています。

令和元年度の今期はスピードをモットーに、いち早く利用者様にサービスを提供出来るように努めてまいりたいと思います。

平成30年度 会計報告

法人単位資金収支計算書
(自)平成30年4月1日(至)平成31年3月31日

勘定科目		決算	(単位:円)		
に事業による活動収入	就労支援事業収入	3,232,294	に事業による活動支出	人件費支出	67,549,051
	障害福祉サービス等事業収入	87,029,777		事業費支出	14,699,326
	経常経費寄附金収入	628,799		事務費支出	4,928,487
	受取利息配当金収入	5,335		就労支援事業費用	3,337,055
	その他の収入	93,291		減価償却費	2,102,828
	事業活動収入計(1)	90,989,496		国庫補助金等特別積立金取崩額	△388,000
				支払利息支出	123,251
				その他の支出	
				事業活動支出計(2)	90,637,170
				事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	352,326
に施設整備等収入	施設整備等補助金収入	1,330,000	に施設整備等支出	設備資金借入金元金償還支出	1,330,000
	その他の施設整備等による収入			固定資産取得支出	1,339,850
	施設整備等収入計(4)	1,330,000		固定資産売却・廃棄支出	480,351
				その他の施設整備等による支出	
				施設整備等支出計(5)	3,140,201
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△1,810,201		
活その他による収入	サービス区分間繰入金収入		活その他による支出	サービス区分間繰入金支出	
	その他の活動収入計(7)			拠点区分間繰入金支出	
				その他の活動支出計(8)	100,000
				その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△100,000
				予備費支出(10)	
				当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△1,557,875
				前期末支払資金残高(12)	30,124,003
				当期末支払資金残高(13)=(11)+(12)	28,566,128

法人単位事業活動計算書
(自)平成30年4月1日(至)平成31年3月31日

勘定科目		当年度決算(A)	(単位:円)		
増減の比率	就労支援事業収益	3,232,294	増減の比率	増減	
	障害福祉サービス等事業収益	87,029,777		増減	
	経常経費寄附金収益	628,799		増減	
	サービス活動収益計(1)	90,890,870		増減	
	人件費	67,549,051		増減	
	事業費	14,699,326		増減	
	事務費	4,928,487		増減	
	就労支援事業費用	3,337,055		増減	
	減価償却費	2,102,828		増減	
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△388,000		増減	
サービス活動費用計(2)	92,228,745	増減			
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△1,337,875	増減			
増減の比率	受取利息配当金収益	5,335	増減の比率	増減	
	その他のサービス活動外収益	93,291		増減	
	サービス活動外収益計(4)	98,626		増減	
	支払利息	123,251		増減	
	サービス活動外費用計(5)	123,251		増減	
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	△24,625		増減	
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	△1,362,500		増減	
	施設整備等補助金収益	1,330,000		増減	
	サービス区分間繰入金収益			増減	
	拠点区分間繰入金収益			増減	
特別収益計(8)	1,330,000	増減			
固定資産売却損・処分損	1,245,142	増減			
国庫補助金等特別積立金積立額	1,330,000	増減			
サービス区分間繰入金費用		増減			
拠点区分間繰入金費用		増減			
特別費用計(9)	2,575,142	増減			
特別増減差額(10)=(8)-(9)	△1,245,142	増減			
増減の比率	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△2,607,642	増減の比率	増減	
	前期繰越活動増減差額(12)	26,756,371		増減	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	24,148,729		増減	
	基本金取崩額(14)			増減	
	その他の積立金取崩額(15)			増減	
その他の積立金積立額(16)		増減			
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	24,148,729	増減			

法人単位貸借対照表
平成31年3月31日現在

資産の部				負債の部				純資産の部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	38,557,059	39,408,732	△849,673	流動負債	9,990,931	9,282,729	708,202	基本金	10,041,044	10,041,044	
固定資産	23,928,507	25,356,274	△1,427,767	固定負債	13,020,000	14,340,000	△1,320,000	国庫補助金等特別積立金	2,461,667	1,519,667	942,000
基本財産	16,867,864	17,851,044	△983,180	負債の部合計	23,010,931	23,622,729	△611,798	その他の積立金	2,823,195	2,823,195	
その他の固定資産	7,060,643	7,505,230	△444,587					次期繰越活動増減差額	24,148,729	26,756,371	△2,607,642
資産の部合計	62,485,566	64,765,006	△2,277,440					純資産の部合計	39,474,635	41,140,277	△1,665,642
								負債及び純資産の部合計	62,485,566	64,765,006	△2,277,440

編集後記

これまでわかば園だよりとして発行していましたが、この度、各事業所の様子をお伝えたく、法人だよりとすることになりました。第1号ということもあり文章が多くなりましたが、今後はより読みやすいものをお届けできるようにしたいと思います。 文責：津浦

てくてく(放課後等デイサービス)

児童発達管理責任者 仲千恵子

現在、小学生から高校生の19名の方が契約され、ほぼ毎日定員(10名)いっぱいの方がご利用になられています。

ご家庭、学校、相談支援事業所、と連携を図り、利用者本人とご家族のご要望に添えるよう、毎日、支援前のミーティングと毎月1回、月間のスケジュール決めの会議を開いています。

集団支援では、他者との関わりの中で、1人では諦めてしまうことも、「やってみようかな?」「みんなが応援してくれるから、頑張る!」など、互いによい刺激を受け、「チャレンジ精神」「自尊感情の向上」「成功体験の積み重ね」などができるよう、日々取り組んでいます。

活動内容としまして、「静」と「動」の内容を交えた「てくてくらんど」、他者との関わりに必要とされる「ソーシャルスキル」や「プライベートゾーン」、てくてくオリジナルのカードゲームでは、「他者への思いやりや喜びの共有」等を身に付けられるよう一緒に楽しみながらサポートしています。高学年の方々は、活動の内容の決定や低学年の利用者への配慮などの企画会議を開き、「自分の意思表示・他者の意見の受容」などを習得しています。

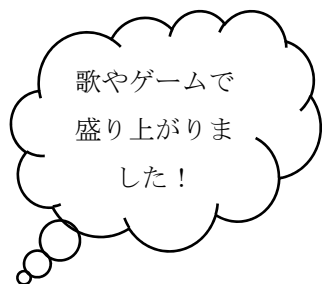
個別支援では、個々の利用者の「困っていること」「やりたいこと」が実現できるように、作業や自由時間の遊びを工夫し、楽しみながら取り組める事を日々提供しています。

音楽療法を通じて感じたことを表現したり、他者との合奏を楽しんでいます。歯科衛生士による歯磨きに関する話には、興味・関心をもって耳を傾け、かわいいイラストや小道具に目を向けています。食後には、歯磨き指導後に、仕上げ磨きも行っています。

温かい地域の方々に日々見守られ、楽しい交流の機会も設けています。年2回の防災訓練、昔遊びや創作などに参加され、笑顔で子ども達と関わってくださっています。季節感を感じられる野菜を栽培し、収穫体験をさせていただいています。毎年、七夕には笹をとってきてくださり、子ども達が短冊に願いを書いています。地域の皆様に支えられながら今日も、明日も、子ども達の笑い声が響く場所をと考えています。



地域の方との交流会



ぷくぷくほーむ(短期入所・日中一時)

管理者 吉川博

短期入所・日中一時あわせて定員5名のところ、月曜日は4名、その他の日はキャンセル待ちになるほど利用が続いています。

家族の方が安心して預けることができ、利用者それぞれにニーズに出来る限り応え、日々楽しく過ごすことができるように努力しています。

平成30年度 法人事業報告

平成30年度は法人開設10周年の記念すべき年になりました。

法人として、以下の取り組みをしました。

- ①法人設立10周年記念行事として現代国際巨匠絵画展を「ほるぶ A&I」の協力で「実行委員会」(委員長:兼田静子<赤穂市手をつなぐ育成会・会長>)を立ち上げ準備を進めてきました。平成31年2月23日(土)~25日(月)の4日間、赤穂ロイヤルホテル2階松緑の間で、開催しました。次の団体等にご後援頂きました。赤穂市教育委員会、赤穂市社会福祉協議会、関西福祉大学、相生・赤穂市郡歯科医師会、赤穂ライオンズクラブ、神戸新聞社(順不同)
- ②赤穂市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネットあこう)への参加
昨年度から準備を進められていた上記会議が、平成30年11月14日(水)に赤穂市総合福祉会館で設立総会(構成法人市内の10法人)が開催され、会員として「社会貢献」に取り組むことになりました。その一環として、地域貢献事業として、赤穂市福浦新田地区での段ボールや古新聞・古雑誌の回収を計画し、取り組みを始めました。
- ③グループホームの建設に向けて、設計事務所上田に候補地を赤穂市新田字五の前906番1として、グループホームの設計図を試案してもらい、家族会等のご意見も聞き、修正をしております。この設計図を下に、県への建設許可願いの手続きを進行中です。
- ④相談支援事業所の開設に向けて、定款・経理規程の変更および補正予算の編制等を含め取り組んできました。相談支援事業所「ばいろっと」を「てくてく」(赤穂市塩屋字奥田2191)の敷地先に平成31年4月1日に開設することになりました。

各事業所 令和元年度の取り組み

わかば園(生活介護・就労継続支援B型)

管理者 中本定行

<生活介護事業>

退所による利用者減に伴う支援の体制の見直しを図ります。園内生活の充実を図るよう努めます。ゆとりある活動として、創作・音楽活動を更に充実させます。創作活動で制作した作品を地域の皆さまに公開し、より理解を深めて頂くように努めます。

出張所「とらっきー」(開設2年目)の活動の充実を図ります。

地域貢献活動の一環として、福浦新田地域で高齢者の家庭のリサイクル物資の段ボール等の無料回収を毎月1回定例の活動とします。

<就労継続支援B型事業>

平成31年4月、新しい利用者1名増えました。

平成30年度から支援費が、利用者の工賃の額によって、支払われるよう変更されています。平成30年度の平均工賃が18,070円でした。今年度は更に平均工賃増を目指し、取り組みます。

実施作業内容は、関西福祉大学内の喫茶室での喫茶業務、事業所内での請負作業(ファンシーグッズの袋詰め、電気部品の組立、介護ベッド柵の清掃など)、施設外では民間企業の集合住宅の清掃作業等を継続して進めます。生産販売事業は農地利用で生産した野菜類の販売等を進めます。

市役所のロビー販売、イオンでの販売などで利用者の工賃の増をめざします。

これらを更に発展させるよう取り組んでいきたいと思っております。

地域のだいこん祭りでの販売活動などを通して交流を深めたいと思っております。

